

眼科学実習

Training of Ophthalmology

キーワード

- ① 高度先進口腔医学
- ② 眼科学
- ③ 眼科検査
- ④ 眼科治療
- ⑤ 全身疾患と眼科

授業概要

日常眼科診療で行われている眼科検査、および眼科手術を実際に経験、見学することにより、視機能回復の過程を学ぶ。また、将来、歯科との臨床研究に利用可能と思われる眼科的検査の検討に必要な基本的な方法論を学ぶ。特に、眼科主要検査に関しては機器を前に目的、使用法、解析法などを概説、眼科手術（白内障、斜視）に関しては、手術法を概説した後に実際に、検者、被検者になって検査を体験、眼科手術は白内障、または斜視の手術を見学し、術前の検査結果と術後の検査結果を比較、その視機能回復の評価法を実習する。

授業科目の学修目標

この実習の目標は、代表的な眼疾患、疾患に対する検査、治療法の概要をまず理解し修得。検査は実際に体験、また、手術、レーザーなどの治療を見学し、視機能回復の評価法を学び、眼科学的な機能検査法を用いて口腔医学に関する研究に応用できるようにする。

授業計画

- ① 眼科疾患学 12コマ
- ② 眼科検査学 12コマ
- ③ 眼科検査実習 12コマ
- ④ 眼科治療学（薬剤、レーザー、手術）12コマ
- ⑤ 眼科手術見学実習 6コマ
- ⑥ 眼科検査を用いた医歯学研究計画立案実習 6コマ

実習担当教員 槻木恵一 平嶺浩子 市田佳子

教科書および参考書

イラスト眼科 (Bunkodo Illustrated Basic Series)、文光堂、渡辺 郁緒 (著)、新美 勝彦 (著)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書、または参考書の指定された部分を一読し、基礎的な知識を得たうえで、実習に参加する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 代表的な眼科疾患を理解できる。
- ② 眼科検査の概要を説明できる。
- ③ 眼科検査を実際に実践でき、視機能の評価ができる。
- ④ 眼科治療の概要を説明できる。
- ⑤ 眼科手術を見学し視機能回復の過程を修得する。
- ⑥ 眼科検査を用いた医歯学研究計画が立てられる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
40%	0%	20%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験による眼科検査、治療の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは眼科検査、手術を実習または見学し歯科学研究へどのように応用できるかを述べてもらう。1回20%
- ・実技は実際に眼科機器を使用し、機器に対する実践度、理解度を判定する。1回40%

理想的な達成レベルの目安

全体的な達成レベルは70%以上とする。